

仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所
 980 仙台市本町一丁目 2 番 12 号
 電話〇二二二一七三七一 番
 編集・発行人 首藤 正義

世界と教会の未来は「家族教会」から

— 第 14 回仙台教区司祭大会開かる —

去る 6 月 25 日から 27 日まで、盛岡で第 14 回司祭大会が開催された。この大会は 2 年に一度開かれるもので、今回は司祭評議会の中でベトレム会が企画・開催の労をとることになつた。48 人の司祭が北は弘前、南は会津若松から集まり、「明日の小教区」というテーマのもとに「家庭司牧を中心とした小教区」を共に話し、考える研修会であつた。

講師としてアンドレ・ラベル修道士(ラ・サール会)が招かれた。彼は MBW のメンバーとして西アジア地区の責任を負い、フリーピン、インドネシア等で「小教区刷新」のアニメーターとして働いている。

大会に先だつて、講師から、3 つの問いが大会準備のため出されていた。「信者家庭の良い面・悪い面」、「現在をなされている家庭司牧はどのようなものか」、「家庭司牧の展望と計画」、この三つの質問を司祭一人ひとりが考え、各会毎に話し合われ、まとめられたものが準備された。大会はこのまとめを用いながら進められた。

今大会の特徴は講師による導入のことは、グループ作業・グループによるポスターを用いての発表という方法がとられたことである。ただ一方的に講師の話を聞くだけのものではなかつたところにある。

大会会場には、「世界と教会の未来は『家族教会』から」のことがファミリアリス・コンソルツィオからとられ、大会当日のテーマとして掲げられた。

プログラムの流れは大きくわけて次の通りであつた。現状把握、再確認、今後の展望。

現状把握として、先ず各自がまとめ(準備されたもの、大会当日初めて配られた)を読み、グループ(各会・老若混合の 7・8 人)毎に話し合われ、ポスターにまとめる。話し合いの問いは次の通り。「家庭司牧のために今一番必要とされていることは何か」、「現在行なわれている司牧はどの程度ニーズに込えているか」、「教区・地区・小教区の今のやり方は家庭司牧に役立っているか」。

ファミリアリス・コンソルツィオの紹介の

後、次の点が再確認された。「教区の未来は家庭にかかっている」、「家庭司牧は家庭を通して行なわれる」、「福音宣教する家庭こそ家族教会である」。

最後に展望として、家庭が「家族教会」になるための具体案を共に探そう、ということと各会毎にグループ分けがなされ、教区レベル、地区レベルで出来ることが話された。

そして、今大会の合意事項として、「50 周年の教区大会は家庭司牧を柱とする」ことが掲げられた。2 年後にはより一層生き生きとした小教区が期待できそうである。(首藤)

司教日程 (7 月 17 日現在)



- 7 月 23 ~ 25 日 カリタス・ジャパン(東京)
- 30 日 教区司祭団月例会(仙台)
- 8 月 2 日 ~ 20 日 カトリック新聞主催、聖地ローマ巡礼
- 8 月 26 日 須賀川教会堅信
- 9 月 2 日 原町教会堅信
- 5 日 難民定住対策常任委員会(東京)
- 6 日 常任司教委員会(東京)
- 8 日 聖母被昇天会来日 50 周年(青森)
- 10 日 教区司祭団役員会(仙台)
- 12 日 人権福祉委員会(東京)
- 15 日 福島県カトリックの集い
- 23 日 神学講座(仙台)
- 24 日 司牧評議会(仙台)
- 27 日 男女修道会合同役員会(東京)
- 30 日 塩釜教会堅信

教区大会の……

テーマ決まる……

明後年の教区大会に向けてその基本方針や
具体案を打ち出す企画委員会が発足した(既
報)が、このたび、大会の大筋およびテーマ
が決定、次のように発表された。

△教区大会▽

期日…昭和61年9月14日(日)昼頃、

15日(月)敬老の日)昼頃、

場所…仙台(会場は未定)

参加資格…仙台司教区全信者および求道者

テーマ…「明日の教会をめざして」

―教会の未来は家庭にかかっている―

△教区大会に関する基本方針▽

1. 意義ある大会とするために不可欠のこととして、大会に向けての各小教区共同体での祈り・勉強・活動を最大限に積み重ねてもらおう。そしてその積み重ねを促すために、企画委員会から指針・ヒントを教区報等を通じて提供し、各小教区あるいは地区の進行状況の報告を収集する。
2. 大会は、1でのべられた努力の結集であり、その発表・わかちあいがなされる。
3. 大会の成果を土台とし、その後の教会発展のための展望を打ち出したい。

また、この発表とともに、教区大会に向けての活動として各小教区ですぐにも話し合いを始めるよう、企画委員会は次のように……

かけている。

そこで、上記テーマに沿い、「家庭のあるべき姿」について話し合いを始めて下さい。現実の家庭の形にはいろいろあるでしょう。一家全員が信者である家庭、家族の中でお母さん(主婦)と子供たちだけが信者である家庭、夫あるいは妻だけが信者という家庭、一家の中で一人だけが信者である家庭、等々。それぞれがそれぞれの家庭において信仰に根ざした一番ふさわしい家庭のあるべき姿を探ってみてはいかがでしょうか。このことについて話し合い、検討してみして下さい。

2年後の大会に向けて、信仰を同じくする兄弟姉妹が、教区内のどこでも同じテーマで話し合いを行なっている、ということが教区全体の認識として持っていたたくのがまず重要と思います。その認識を持つての各小教区共同体での準備を経て、司教区という大きな生きた共同体を感じることにできる大会にしたいと思えます。そのためには是非とも皆様の御協力が必要ですので、今日からの皆様の積極的な御参画をお願い致します。

※ ※ ※

今後教区報は、右の基本方針1にあるように、企画委員会からの指針やヒント、そして各地の活動の様子が流布される一つの場となるが、そのような記事で紙面が賑わい、教区大会の成功へ盛り上がりつついくよう、大いに期待したい。

仙台教区修道女連盟研修会開催

テーマ「修道女と対人関係」

―共同生活の観点から―

去る6月3日(日)、仙台は小雨模様、肌寒い日でした。しかし、北は速く青森、南は白河より一〇〇名以上の修道女たちが、戦災復興記念館に集まって、右のテーマで熱心に研修を行ないました。

講演者には、水沢市創生会・胆江精神科病院長の三浦功先生をお招きいたしました。

講演の中で先生は、次の点について懇ろなご指導をくださいました。

対人関係の諸問題について、その要因、一般論(生物学的・発達心理学的・社会学・文化人類学的見地より)、また、日本人の人格にみられる共通問題を探り、それぞれの問題に対する対処の仕方、および、予防的対策など、豊富な実例を挙げながら、毎日の実践に役立てられる有益なものでした。特に先生の信仰から溢れる人間愛と確信に、深い感銘を受けました。

3時からの吉田神父様司式のご昇天のミサにおいて、心一つにして信仰を宣言したとき、今までにない相互愛の力強さを感じました。そして、この日いただいた照らしに従って、それぞれの共同体において、愛の絆を強め、奉献の道をひたすら精進することを心に誓いながら、感謝の中に散会しました。

この紙面をお借りして、三浦功先生に心から感謝申し上げます。(Sr秋山記)

佐藤司教様
司祭叙階25周年祝賀会



仙台教区長ライムンド佐藤千敬司教様の司祭叙階25周年祝賀会が7月1日午前11時から午後1時まで、仙台教区カテドラル元寺小路教会の信徒館で盛大に開催された。

その中で佐藤司教様は、司祭になってから25年間、自分がしたい仕事は殆んどやらせてもらえず、望まない仕事ばかりをしてきた、と感想を話していらつしやいました。また、司教総代理の斎藤石雄神父様はご祝詞の中で、最近司祭になる青年が少ない理由の一つとして、自分が司祭になつたら、だれが両親の面倒をみるのか心配で司祭に成れないのではないかと述べていられました。これからもご健康で、仙台教区信徒のためによくご指導をお願い致します。(元寺小路教会・中村信忠)

宮城県信徒大会



恒例の宮城県信徒大会は7月8日午前10時より午後3時30分まで、仙台白百合学園において約五八〇名が参加して行なわれた。

開会式のあと10時15分よりミサが、佐藤千敬司教他22名の司祭の共同司式、元寺小路教会聖歌隊の伴奏で献げられた。佐藤司教は、この信徒大会が2年後に行なわれる仙台教区大会の準備ともなるよう希望された。

11時40分、井上洋治師の基調講演、前晚元寺小路教会信徒館で話された趣旨と同じく、

次のように述べられた。「明治以後のキリスト教がヨーロッパからの直輸入、日本の心情にびつたりこない、一般の人々から見ると教会は「しきいが高い」、「近づきにくい」、「聖人ぶつた人の集まり」という感じを与える。これは教会の中に、そのように感じさせるもの、イエズスがつとも嫌われたフアリザイ的律法主義的なものがあるからではないか、今こそ教会はイエズスが教えられた愛の姿に回心しなければ、キリスト教が日本に根づくことは難しいであろう」。

- 12時40分、ブロック毎に昼食、のち活動報告。
 - (1) フイリピン問題について(猪岡光氏と萱場さん)
 - (2) 聖パウロ女子修道会の紹介(Sr果原さん)
 - (3) 小さな命を守る会の活動紹介(新村碩子さん)
 - (4) いのちの電話(三浦平三神父)
- 一方、幼児・小・中・高生はミサ後、各グループに別れて、それぞれ独自の活動を行なつて散会した。(下山 記)

ピリングズ式受胎調節法

研修会に参加して

去る6月23日、光ヶ丘研修所に於て新しい自然な受胎調節法の研修会が行なわれました。講師は、日本に初めてこの方法を紹介された寺尾総一郎神父様です。

「排卵法」とよばれるこの方法は、オーストラリアのジョン・ピリングズ博士とその研究グループによつて、公式化され実用化されたもので、日本語訳は約10年程前に出され

ていましたが、カトリック的結婚観をもった素地から出来上がったものである由か、一般的にはあまり紹介されていませんでした。今回、50名の参加者の中には、公的病院の助産婦、教育担当者及び家族計画を研究テーマに現在調査研究をしている助産婦学生もあり、女性の周期だけを利用した、非常に単純でかつ最新の科学知識が基礎になっており、何回かの兆候観察によつて誰にでも手がかるに出来、夫婦愛、家庭愛を深めていくこの方法に、非常に興味を示していました。

すでにこの方法を取り入れ、自己体験的に納得している人は、さらにその良さを再認識したようです。ある助産婦は、「何年間も助産婦として働きながら、こんな良い方法を知らなかつたことは本当に残念です。さつそく友人の何人かにテキストを送り勧めました」と話していました。スベルマン病院では、産婦人科の開設当初から退院指導の中に、この方法をおりませ、多くの方々に喜んでいただいています。

人工的避妊法のために心理的、肉体的に苦しんでいる多くの人達を知るにつけ、人間に備わっている受胎可能期と不妊期を利用し、夫婦間のコミュニケーション、協力、配慮を深めながら幸福な家族計画が出来るこの方法が、多くの方々に知られることを願っています。

排卵法をもっとくわしくお知りになりたい方は「図説排卵法」をご一読ください。スベルマン病院産婦人科外来でとりあつかっています。(高橋 記)

水沢教会..... 移転問題に直面.....

恒例の寿庵祭には、今年も皆さまのご参加、ご支援をいただき、ありがとうございます。水沢市横町にある水沢カトリック教会では、現在の場所が、横町再開発事業による地上五階建ての商業ビルの一部に含まれることになり、信者達が長年親しんできた教会の移転問題に直面しております。これまでは、状況がはっきりしないため、当教会としても移転には消極的でしたが、先日、ようやく、開発事業組合、及び市の方から、代替地といたつた条件を提示されました。工事の方も、まもなく着手される予定なので、信者達は、ローネル神父様を中心に、たびたび会合をもち、移転問題実行特別委員会を結成し、今後予想される問題の具体的検討をはじめたところです。現在の移転先の候補地は、これまでの非常に便利な場所と比較して、当然、信者全員が満足できる位置ではないのですが、現在地にとどまった場合に起こりうる、市民からの様々な批判などを考え、また、信者の莫大な負担なしには、この老朽化しつつある教会の改革も困難な現状の中で、このたびの開発事業組合、及び市の援助で、新しい教会が建てられることは、又とない好機と思われまふ。後藤寿庵が将来を考えて、胆沢の荒野を開拓し、現在の水沢市発展の基礎を築いた勇氣と決断をお手本として、私達も、福音宣教にふさわしい場所に、愛の共同体としての新し

い教会を建てるべく、信者が一体となって取り組む覚悟です。

みなさま方のご支援、ご教示をお願い申し上げます。(水沢教会 大歳栄一)

平和を求め

『キリスト者合同祈禱集会』のご案内

「悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え」(一ペテロ3・11)

39回目の敗戦記念日がやって来ます。左記三者の共催による、平和のための祈禱集会を計画いたしました。いと小さき者のひとり愛し仕えられた主のみことばに従い、教派を超えてキリスト者が一堂に会し、8月15日の初心に戻り、不戦・平和への決意を新しくし、平和を求め祈りを一つにしたいと存じます。祈りの輪がさらに広げられることを願って、どうぞこの集まりに御参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

とき 昭和59年8月12日(日)午後3時~4時
ところ 仙台・カトリック元寺小路教会
昭和59年7月29日

仙台キリスト教連合
仙台・カトリック正義と平和協議会
核兵器廃絶と平和を願うキリスト者の会

「ボランティア」募集

動けない方々の食事介助、話し相手、身のまわりの世話をしていただけの方を歓迎します。連絡はスベルマン病院看護部まで。

Tel 0222215710231代



4月に、人事異動があった。四か月が過ぎようとしている。「神父さん、教会の方はいかがですか。もう慣れたでしょうか」ということばをよく耳にした。

一体、「慣れる」ってどういうことなのだろうか。デワノカミ(何々ではこうであつた)が無くなることだろうか。前の神父さんはこうでした、のことばが聞かれなくなることものだろうか。いざれにせよ人は各々違つた慣れを体験する。何回かの異動を通して筆者が思うに、それはある日、ある時、突然、人の心の中に起こる。「行く」意識から「帰る」意識への変化。その瞬間、うれしさと寂しさが同居したような複雑な気持ちになる。その意識の変化は、スクリーンのひとコマのような景色と大いに関係がある。ひとつの景色が、何故か強烈に、愛すべき、消えない印象としてひとの心に浸み込んでくる。その時ひとはその地に慣れた、と言つてもいいのかも知れない。そのひとコマは、夕日であつたり、冬化粧した山であつたり、港に浮かぶ船であつたり、高架橋を走る列車とその音であつたり、町の雑踏に点滅するネオンサインだつたりするのである。(狼河原)



イエズスさまへ

佐藤 竜次
(東仙台教会 小4)

ぼくはごせいたいをいつもいただと、ぼくはうれしい気がします。ぼくはいつもイエズスさまが心にいてくださるんだなとおもふといいきもちになります。

じしゃになつてちよつとむずかしいところがありますがとてもうれしいです。

ぼくがじしゃになつたときみまもつていてください。あとごせいたいありがとう。

武内 えり子

(東仙台教会 小4)

イエズス様あなたがおっしゃった「今はあなたたちにはわからないだろう」(ヨハネ13:7)ということはどういふことですか？


イエズス様はなぜ、おはかを出て弟子たちにあいに行つたのですか？イエズス様の弟子たちはイエズス様のことをしらないといつたのですよ。イエズス様はふつかつしてご自分のおはかを出られ、弟子たちの悪い心をなおそうとしたのですか？

わたしの心は弟子たちのところのようにわるいのです。でもユダはちがいます。

あんなにイエズス様をうらぎるなんてよくできると思います。だけど「イエズス様の前にく

84年間目標

社会に
キリストの平和を！
(仙台司教区)



る時ぜつたいプレゼントをもつてこないといけない」というきそくがあつたとしてもイエズス様はうれしくないと思います。

イエズス様がもらつて一番うれしいと思うのは、おいのりとまごころだと思ひます。

どうかわたしにもまごころをください。



岡田 新一郎

(八木山教会 小3)

ぼくはいばらのかんむりをかぶつた時、い

わたしと

イエズスさま



たかつたと思ひます。ぼくだつたら、かぶれません。

イエズスさまがさいごまで十じかをもつたのはえらいつと、思ひます。ぼくだつたら、さいごまでもてません。イエズスさまは、い

いですがいいですね。ぼくもそういううでしがほしいです。
会どうから、おいだされるなんて、かわいそうだと、思ひます。このしゃしんを見ると、かわいそうだと、おもひます。



竹内 佐和
(八木山教会 小3)

ヨハネ13章・14章でおもつたことは、イエズスさまはベトロさんにきなさい。さわにもイエズスさまはきなさい、といつてゐる。とてもうれしい。

15章でおもつたことは、ぶどうの木がふやしたみのなかで、えだで、みをむすばないものは、父がきりおとす。とせいにしよにかいてあつたのでどうしてかな？とおもつて、ざーとさきをよんでみた。そしたら、わたしがかつたことばによつてあなたたちはきれいなつてゐる。とかいてあつた。えんていつてどういうみなんだろう。いろいろわからないかんじばかりだつたけれど、かみさまも、いつしよにかんがえてくれてゐるんだな、とおもつてとつても、うれしかつた。



おだじまみのり
(一本杉教会 小2)

はつせいたい
ぼくたちははつせいたいをうけることになりました。ごミサのとき、みんなといつしよにせいたいはいりようができるようになるので、とてもうれしいです。かみさまのからだをいだいて、もつともつといい子になりたいとおもひます。

☆去る7月8日の宮城県信徒大会のために来
仙された井上洋治師の講演テープ、「日本人
とキリスト」を一本・千五百円(送料170円)

でおわけします。
ご希望の方は、元寺小路教会・横島神父様
までご連絡を。(Tel 22-1550-07)

おらが教会 (45)

福島・二本松教会



二本松は、福島県中通り地方の福島と郡山
の中間に位置し、高村光太郎が、「あれが阿多
多羅山、あの光るのが阿武隈川」と詩(うた)
った地であります。また、二本松はちょうち
ん祭りや菊人形などでも有名です。

二本松とキリスト教とのつながりは意外と
古く、江戸時代に、二本松を治めていた殿様
(丹羽様)がかくれキリシタンだったと言わ
れています。その証拠の一つとして、殿様の
家紋がななめ十字の紋で、アンドレアの十字
架と同じであることを指摘する方がいます。

本格的なカトリックの宣教は昭和20年代の
後半、当時福島市大町教会(現在の野田町教
会)の主任司祭だったドミニコ会のフォルジェ
ト師によって開始されました。当初は民家を
借りてミサを挙げていましたが、昭和33年に
現在地に教会が献堂され、大町教会の巡回教
会として目に見える形でうぶ声をあげました。
献堂当時は田んぼの中に教会がポツンと立つ
た感じで、東北本線の車窓から教会がよく見
えました。梅雨時にはかえるの大合唱が聞こ

えた教会も、今は宅地化が進み、教会の十字
架も近くにこないと見えないような環境にな
りました。

昭和35年にフォルジェト師がカテキスタの
茂木さんと二本松に移り住み、初代主任司祭
としての活動が始まりました。当時は珍しか
ったジープを運転し、市内はもちろん、何十
キロも離れた阿武隈山系の山中まで伝道を行
ないました。師の活動の成果が地域に徐々に
浸透していくと、教会の周辺の人々から幼稚
園設置の要望が出てきました。そこで昭和37
年、人々の要請に答える形で幼稚園が開園さ
れ、ますます教会と地域との関係が深くなり
ました。

昭和49年にフォルジェト師が故国カナダで
病氣帰天後、教会は約8年間司祭が住んでい
ない教会となりました。その間、郡山教会や
福島松木町教会の神父様が定期的にミサを挙
げにきました。54年頃からドミニコ会のポリ
ュー管区長(当時)は月一回東京からはるば
るミサを挙げてきてくれました。さらに福島
の修道院からシスターがほとんど毎週、聖書
と典礼の解説と指導にきてくれました。

昭和57年1月からポーロ師が二代目の主任
司祭となり、同年11月にユリアン師が三代目
の主任司祭となり、本当に久しぶりに司祭館
に灯りがともるようになりました。その灯り
を信者が見て、心からホッとしたのは言うま
でもありません。

二本松教会は昨年8月に献堂25周年を迎え
たばかりで、教会員の人数は55人前後で、通

常のミサ出席者は10〜15名です。大きな教会
には婦人会や青年会等の組織がいくつかあり
ますが、二本松教会は信者会一つしかありま
せん。信者会の活動は6月の阿多多羅登山と
10月の黙想会が代表的です。阿多多羅登山は
体力に自信のある人は頂上まで登り、自信の
ない人は登山口の奥岳を散策したり温泉にゆ
つくりつかります。もつとも、高村光太郎の
言う「本当の空」により近い阿多多羅山の頂
に登る人は神父様を含め数人で、温泉につか
りながら「会津磐梯山」を歌う人が圧倒的に
多いのが実情です。黙想会は3年前から始ま
りました。初めて実施した時、黙想会に参加
するのは初めてと言う人が多く、黙想会の感
想も、大変くたびれた、と言う人が大部分でし
た。二回目の昨年はもつと長くやってほしい
という声がある程になりました。これらの
他にもいくつかの行事を行っています。い
ずれの行事も人数の少ないこともあり、極め
てアットホームの雰囲気の中でやっています。

(勝又治男)

【編集後記】



日曜日のミサは朝の7時と9時30分の2回。
後のミサに与つた一人の信者さんに「教区報
はもうないのでしょか」と問われた。前の
ミサで全部数が出てしまったのである。もし
かしたら、同じような思いをしている人が他
にも大勢いるのかもしれない。部数の足りな
い教会は是非お申し出下さい。ちなみに仙台
教区信徒総数一三〇九人、世帯数四八〇九
に対し、教区報発行部数三三〇〇。(首)